



それぞれ半分にあたる1億ドルを目標にかかげた募金活動を開始しました。しかし、これも資金が不足するということがわかり、2008年にゲイツ財団がさらに2.5億ドルを、RIもそれに応じてさらに1億ドルを上積みした目標を掲げました。粘り強い活動の結果、2012年1月17日に目標額を達成することができました。

年間35万件ともいわれた発症数は、昨年には700件以下に減少し、ポリオの撲滅は達成に近づきました。もしポリオが消滅すれば、この疾病にあてている何億ドルもの費用を発展途上国の公衆保健事業に投資できるのです。1985年にポリオ撲滅活動を開始していなければ、2005年にはポリオ患者が

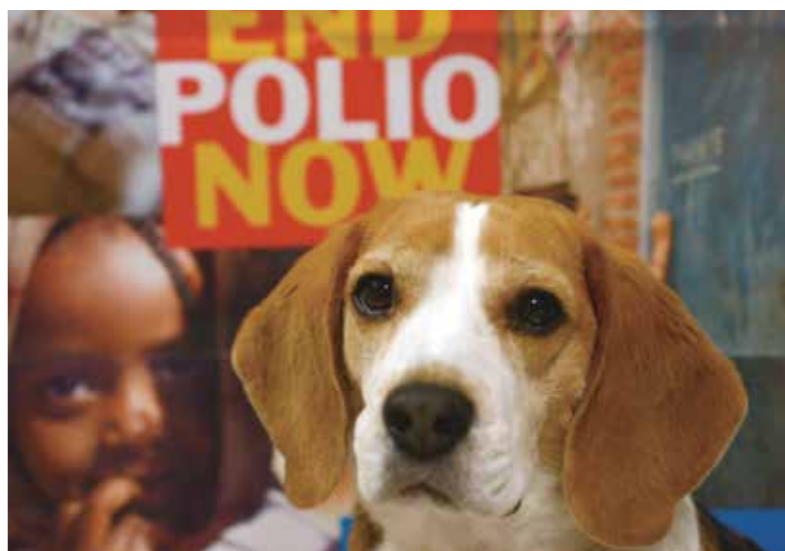


800万人に達していたという予想もあります。活動のおかげで、人口の多いインドでも昨年中にポリオ発生の報告はありませんでした。しかし、アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリアでは、未だポリオの患者が発生し続けています。紛争によるワクチン投与の遅れや、内戦による国境からのウイルス流出で、一度、撲滅を宣言した近隣諸国にもポリオが再び広がりを見せています。100%撲滅を宣言するその日まで、ロータリアンとポリオの闘いが終わることはありません。



人類のため ロータリーは活動しています。

1980年5月8日、WHO(世界保健機関)は天然痘の世界根絶を宣言。人類とウイルスとの戦いにおける、記念すべき最初の勝利です。



ポリオ撲滅への悲願と、 世界に先駆けたロータリーの活動

天然痘に続き、WHOが次に根絶を狙ったのがポリオ(脊髄性小児麻痺)でした。ポリオは身体麻痺の後遺症をもたらす、時として命さえ奪う伝染病です。5歳未満の幼児が多くなるかとされ、1980年代当時は世界中で発病の報告がありました。1988年に「世界ポリオ根絶計画」が発足、WHOと加盟国政府、国際ロータリー(以下、RI)、CDC(アメリカ疾病予防管理センター)、UNICEF

(国際連合児童基金)等が共同して活動を推進することになりました。

ポリオ撲滅に向けたロータリークラブの活動歴は長く、RIでは先駆けて1979年にフィリピンのロータリークラブからの要請で幼児600万人に対してワクチンを投与するというポリオ撲滅活動を開始していました。日本でも、1981年に東京麹町ロータリークラブが南インドの子供達へのワクチン投与活動を行っており、従事したロータリーの会員が現地の風土病で命を落とすという痛ましい犠牲もありました。

RIでは、設立100年にあたる2005年までに全世界の児童をポリオから守るワクチン投与を完了させるとして、1982年、世界規模でのロータリーのポリオ撲滅活動をスタートさせました。

1985年にはポリオワクチンの費用として1億7000万ドルを目標に募金活動を開始、RIには倍額以上の2億4700万ドルの寄付金が集まりました。我が国のロータリークラブでのポリオ募金キャンペーンにおいても、目標額40億円をはるかに超える49億円の寄付金が寄せられています。

また、日本のロータリークラブは募金活動以外にも積極的に活動を展開し、1994年に中国で、また1995年にはカンボジアでワクチン二斉投与を開始しています。引き続きモンゴル、ネパール、ラオス、ベトナム、ミャンマー国境、バヌアツ、ニューギニアと、世界にわたってワクチン投与の実施を展開しました。

活動は着実に成果を結び、1994年の汎米地域ポリオ根絶宣言をはじめとし、2000年には日本を含むアジア太平洋の37の国と地域でポリオが根絶されたとする「京都宣言」が発言されました。この輝かしい宣言に続き、2002年にはヨーロッパ地域での根絶宣言が出されました。同年にRIでは「約束を守ろう、ポリオをなくそう」を合言葉に募金キャンペーンを開催、世界中の努力と願いがポリオ根絶への道筋を作らねばなりません。

活動は着実に成果を結び、1994年の汎米地域ポリオ根絶宣言をはじめとし、2000年には日本を含むアジア太平洋の37の国と地域でポリオが根絶されたとする「京都宣言」が発言されました。この輝かしい宣言に続き、2002年にはヨーロッパ地域での根絶宣言が出されました。同年にRIでは「約束を守ろう、ポリオをなくそう」を合言葉に募金キャンペーンを開催、世界中の努力と願いがポリオ根絶への道筋を作らねばなりません。

ポリオ撲滅近し、 その日までロータリーの チャレンジは続く

2007年当時、世界のポリオ撲滅にはおよそ2億ドルの費用が不足しているといわれていました。RIはゲイツ財団と連携して、そ

国際ロータリー第2680(兵庫県)地区でのポリオ撲滅活動

2011年6月19日、国際ロータリー第2680(兵庫県)地区では、地球上からのポリオ撲滅の重要性を知ってもらうため、「ポリオをなくそうチャリティコンサート」を兵庫県公館で開催、600名に上る兵庫県民がご来場くださいました。

イベントではWHOの神戸センター前所長ジェイコブ・クマレサン氏、井戸敏三兵庫県知事をお迎えし、ご挨拶と、ありがたくもロータリーの活躍についてのお褒めの言葉をいただきました。また会場では、国立感染症研究所主任研究官の中島一敏氏から、WHO職員として海外に赴いた際のポリオワクチン接種の体験談を話していただきました。兵庫県内のロータリアンの医師からも、ポリオの恐ろしさやワクチン接種の大切さが訴えられました。

コンサートではロータリーの合唱団やプロのアーティストらにより、誰もが知っている日本の名曲やオペラアリア、海外の民謡まで幅広い音楽が演奏され、フィナーレでは観客も一緒に「故郷」を合唱しました。会場が歌声で一つになった時の感動、そして募金の際にいただいた来場者の方からの温かい言葉と笑顔を忘れることはできません。

ロータリークラブは、これからも社会奉仕の心を胸に、よりよい未来を目指すための活動を続けます。



WHO神戸センター前所長 ジェイコブ・クマレサン氏

